

うしく里山の会 広報誌

さとやま

(No. 69 2008年11月号)

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>

うしく里山秋祭り

実行委員長 坂 弘毅



さーいらっしゃい

牛久自然観察の森・梅林 里山の朝市特設会場

うしく里山の会設立から五年、念願の里山祭りが十月十三日(月)、牛久自然観察の森で開催されました。設立趣旨にある「美しい牛久の里山を未来へ」というテーマを掲げ、「うしく里山秋祭り」として、うしく里山の会、牛久自然観察の森共催による初めての大会イベントです。うしく里山秋祭りは市民の皆さんに里山の会の日頃の活動を体験していただくためのイベントとして、各プロジェクトは趣向を凝らしお客様を暖かくお迎えしました。

十分な準備期間がとれなかったのですが、実行委員はもとより、牛久市をはじめ諸団体、結束の皆さんの協力をいただき、想定されていた通りに里山祭りとして無事終了することが出来ました。当日、スタッフは午前六時半に集合し、オリエンテーションのあと、それぞれ持ち場に移動。

今回の目玉は「里の朝市」です。午前七時になると、朝市にご協力いただける方々から荷の搬入が始まりました。新鮮な朝取り野菜が次々に積み上げられていきます。まさに里山の朝市にふさわしい情景です。午前八時販売開始、待ちこがれていたお客様がどっと流れ込み、並べられた野菜は次々に減っていききました。

午前九時、バツタの原に集合したお客様は受付の手続きを済ませた後、責任者の引率で各会場に散っていききました。同時時間帯に複数のイベントですから全て体験は出来ませんが、各プロジェクトの楽しい企画に、参加された方々には十分満足されたことと思います。今回の成功例、失敗例をきちんと分析し、次回の里山祭りに反映させたいと思います。祭りを運営していただいたスタッフの皆さん、本当にお疲れ様でした。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト活動報告



里山観察隊事業報告

石川 満夫

うしく里山秋祭り

「秋の里山を歩こう」を実施して

十月十三日（体育の日）、うしく里山秋祭りの一環として一般市民の参加を募り「秋の里山を歩こう」を実施しました。コースは牛久久自然観察の森の観察路とビートルズトレイル。季節の草木を観察しながらの里山歩きです。参加者は十七名、その内十二名が一般参加者。当日は太陽が眩しい秋晴れで絶好のウォーキング日和。

九時三〇分過ぎネイチャーセンター前で平塚さんのコース等の説明。渡辺泰さんによる里山としての牛久久自然観察の森の存在意義及び森の草木の現状（開花・結実の状況）の解説を受けた後、ウォーキングを開始。

観察舎に向かう途中、観察路の両側にはウマミツバ、キンミズヒキ、フジカンゾウなどなど。大きい丸い実をつけているホウチャクソウ、勢いのなくなった花とかわいい実が混在しているヤブラン、可憐な花が節々に連なって咲いている「ツリガネニンジンがわいいね」との声。

更に、牛久市での絶滅危惧種とされている植物との出会いも。キバナアキギリ、ツリフネソウ、ヤブレガサなどです。真っ赤な丸い実を沢山つけたウメモドキ・ガマズミが見事。眺めていると心身ともに癒されますねとの声も。図鑑を片手に花の名や

その姿を確認している熱心な一般参加者も。観察舎に十一時頃着き十分程休憩。その後、観察の森を出てビートルズトレイルへ

ビートルズトレイルは、小野川流域の豊かな田園風景が楽しめる約三・三kmのコースです。途中、満開のコスモスが広がる畑があり、目を輝かせている参加者も。見事な花の絨毯です。元水田の跡地にはミゾソバが群生。少し歩いた先に、本物のソバの畑。花や葉が良く似ている。

ハフニングもありました。親子連れの二名が列から見えなくなり、探す場面も。なんとカヤの実を拾っていたのです。沢山袋に入れ嬉しそうな顔、料理して食



べるとの事。これもまた里山歩きの楽しみの一つだと言ったもみんなも再認識。予定より少し早く十二時十分過ぎ全員無事に観察の森ネイチ

ヤーセンター前に到着。アンケートを回収して解散。アンケートには皆さんありがとございました。楽しかったです。また参加しますなどの感想も。



巨木リサー 植生G 假屋英子

植生グループに参加して

九月二十七日は降らず照らずの絶好の調査日和になりました。この日は十三名が参加。牛久町のサワグルミと遠山町のケヤキ・ヒイラギの計測が目的です。

牛久住民ではない私としては、遠山町って牛久どの辺りだろうという興味が、まず湧きます。車数台に分乗して市役所を出発。牛久町バイパス脇の小公園から始めます。遊具の奥にサワグルミの大木が3本。ちょうど実がぶら下がっていました。普通のクルミのイメージとは大違い。もちろん食べられそうにもありません。その他、十数種類の樹木を確認。そして周辺は、次のような下草で芝生状になっています。オニウシノケグサ・ネズミノオ・ブタナ・イヌビエなど生き物と関連した名が多かったのも面白く感じました。

次に遠山町へ。田畑に囲まれた純農村といった感じの地区です。丁家は高台に建つ広い屋敷林を持つお宅でした。藁葺き屋根の建物が目をひきます。周囲にはケヤキの巨木が何本も……。どの木も産つぷちに生えているので、計測する人達は細心の注意

を払いながらの作業でした。一段落して足もとを見ると、落ちたカヤの実がいい香りを放っています。昔、菜種が広まる以前には、この実から絞る油を使っていたとのこと。なるほど、それで握っているとベトベトしてくるのだなと納得。下草はというと、大木で覆われているせいかシダ類が多く目につきました。シダやスゲ類は一見似通ったものが多く、今ひとつ興味が湧きません。従ってなかなか覚えられず困ったものです。

その後、隣のN氏宅の竹林へ。幹回り三・七mのケヤキがあり、その樹形の良いこと。見惚れてしまいました。でも、持主はあまり公にしたいらしく、こつこつ木こそたくさんの人に見てもらいたいのに、と少し残念でした。下草にはいろいろな秋の



巨木ケヤキの下で 08.10.5 渡辺

実が……。フジカンソウやヌスビトハギ・ヒカゲイノコスチ・ホウチャクソウなど、まさに実りの秋でした。十月五日は二十名が参加し、四箇所六本の樹木を調査しました。

森林浴を兼ねたよつな、こつこつ集まりって身も心も元気になるような気がしていますね。道端の彼岸花に見送られ、満ちたりた気持で帰途につくことができました。土浦市民の私もお陰で牛久市街地は大体分かるようになりましたが、郊外となるとまだまだです。植物と見知らぬ土地に興味は尽きません。巨木リサー 植生Gがつつく限り、参加させてもらいたいと思っています。



雑木林応援隊事業報告 両宮 廣之

公開講座 「ツルカゴ教室」

今年度初期の運営会議で、年間行動予定の打合せをしていた時里山祭りの提案がされ、全員賛成で実施が決まったのですが、実施日が二ヶ月に近づいた時点で、事務局より予定が発表され、あわてて応援隊の催しの検討をする事となりました。

都合の良い事に、十月二十六日に予定していた公開講座の「ツルカゴ教室」を、秋祭りの十三日に振り返る事で、応援隊の活動は、「ツルカゴ教室」で決定となりました。このツルカゴ教室は、毎年好評で、参加募集の二十名に対し、四十名ほどの

申込みがあります。今年も、二十名の募集枠はすぐに埋まってしまいました。ツルカゴは、数時間で編める事、余った材料は持ち帰り出来、自宅で再度挑戦・・・が可能な事も理由の一つです。

応援隊で教える編み方は、もっとも基本的な編み方で、深く追求したい方は、ご自分で勉強していただく事と



なります。もともと、初心者の方でも、野趣溢れるカゴができあがるのが特徴で、中学生の初心者が見事なカゴを編んでいます。

奥様に引かれて参加した旦那様がこれまた見事なカゴを編んでいて、思わず声を掛けてしまったほどです。ツルカゴの材料は、フジ、クズ、アケビ、ヘクソカヅラ・・・と色々ありますが、この事前準備が結構大変です。今年は、前日の十二日に集まり、



観察の森入口右側の保全全区で、許可を頂いてツルの採集を行いました。手を入れていない場所のためか、それは見事なツルが一杯ありました。山を手入れする場合、歩きながらでもツルを切れ・・・と言

われませんが、切っておけばいずれ枯死します。切らずにおけば、大事な商品の木材に巻き付き、価値が下がってしまう事から、言われてきたそうですが、その点では、この森のツルは、延び放題で、採取には最適となっていました。ツルを追って、段々と奥に入っていくと見つけますが、そこで見つけた物があります。それは・・・とても太い山椒の木でした。ご存じの通り、山椒の木は、スリコギにしますが、スリコギを超えて、人の二の腕程の太さがあります。それも何本も。まさに「驚き桃の木山椒の木」です。話は違いますが、この驚き桃の木・・・は、語呂合わせ・付け足し言葉で、広く言えば地

口ですが、この地口を使った「地口行灯」が浅草の浅草寺横に何本も、立てられているのはご存じでしょうか・・・。



じゃがいもプロジェクト事業報告
本多 昭子

予定の日（九月二〇日）は前日からの大雨で、畑の作業には不向きといつこと、中止にしました。自発的な方が、九月二十七日に里芋の土寄せなど、これからの収穫と芋煮会にむけて活動をしてくださいました。おかげさまで里芋は葉を大きく空に向け、サツマイモはつるを好き放題に広げ、元気の象徴を見せています。

十月二十五日の活動は次号に。

十一月十五日に秋の収穫と芋煮会です。

一般公募は、じゃがいもの収穫に参加された方（十二家族）に連絡を出しました。

畑の中で協働する家族の楽しい姿を想い、当日の天候は神頼みです。





アヤマ受託事業報告

井上 里枝

夏の猛暑のさなか、花菖蒲畑の水路では右へ左へと、それはそれは賑やかにたくましく開催された、メダカの学校もいつの間にか休校式。小川へ池へ牛久沼へと帰っていき、チョッピリ寂しくなった畑を見渡せば、イヌビエが一メートル以上にも伸びて「俺たちの勝ちだね」といわんばかりに種をこぼしヒレタゴボウが「美味しい」馳走ありがとう」と、花菖蒲にまいた肥料を腹いっぱい吸い上げ誇らしげに黄色の花を咲かせます。

花菖蒲の株分け。今年はA B C D Eの五ブロックあるうちの、一番広いEブロックを除いた四ブロックをおこなったため、花が終つてすぐ七月から始めました。最初に植え終えたBブロック、ひと月もたないうちに夏草が花菖蒲を覆いつくし、株分け作業を中断し一回目の草取り。苗は暑さのせいか、草に負けたせいか何本か腐ってしまったものもあり、新しく補植し、大きく育てと肥料を与えます。

二番目、三番目の株分け作業を終えた畑にも、もうイヌビエがびっしりと種をつけていますし、Bブロックでは、冬草の春菊に似たキレハノイヌナズナがおいしそうに青々と繁っています。

株分け作業も、とうとう十月に入ってしまった根つきが心配ですが、終わりが見えてきてあと少しです。こんなとき応援してくれるものが足元にいます。大きな株を切り分けたときに飛び出してくるオケ



株分け 08/09/17 坂

ラ、慌てて土の中へもぐってゆきます。トウキョウダルマガエルは植え付けしているそばで、チャポンと小さな水音をたてて、作業の様子をみてくれます。今ではどんなご馳走があるのか、シラサギが美しい姿を見せにきます。

Mさんが三年前から植え始めた彼岸花が、見事に真っ赤な花を咲かせて、作業をする者も来園された方々の目も楽しませてくれました。今年もたくさん球根を植えてくれて、株も増えるでしょうから、来年のお彼岸の頃が楽しみです。



結束町みどりの保全区エコアップ作戦
参加者募集 石神 良二

うしく里山の会全体事業

十一月は十五日と十六日の実施となります。元気な森づくりを行いますよつ。

(活動場所に新しく大解説板を設置しました！)

十一月十五日(土) 午後一時～三時三〇分

十一月十六日(日) 午後一時～三時三〇分

集合場所・時間 いずれもネイチャーセンター

一階倉庫前・予約不要(雨天中止/強風時中止)

持ち物 長靴、軍手、帽子、長袖、長ズボン

刈払い機やチェーンソーの使用は資格所有者に

限ります。

(問い合わせ先) 029-874-6600 担当: 石神



牛久自然観察の森報告

斎藤 孝

森はみんなの宝物! 第五回参加者募集

会員の皆さんのパワーを森へ!

『観察の森 もっといい場所増やし隊』

牛久自然観察の森内の野外施設の改修作業やベロン作りなどのボランティア活動を月一回の頻度で行う「観察の森 もっといい場所増やし隊」第五回の活動は第二駐車場の落ち葉かきです。集めた落ち葉や落ち枝は堆肥用など各自お持ち帰りが

可能です。予約不要。お時間のある方、ご参加をお待ちしています。

【活動日】十一月七日金曜日

午後一時～午後三時

(雨天中止) 持ち物・軍手、タオル等

牛久自然観察の森029-8746600 (担当/斉藤)

第三回 さとやまセミナー開催のお知らせ

日時：平成二〇年十一月三〇日(日)

午前一〇時～十二時

講師：高谷 豊氏 (税理士)

内容：「NPO法人の会計のしくみ他」

*各プロジェクト代表と会計担当の方にアンケート

をお配りしています。些細なことでもかまいません

NPOの会計について日ごろの疑問や不安など各プ

ロジェクト代表までお寄せください。

安全衛生教育講習会・参加者募集のお知らせ

安全に里山の手入れを行うため、刈払機と

チェーンソーの講習会を開催します。

講師は、林業業労災防止協会より派遣されます。

刈払機取扱作業者の安全衛生教育講習会

日時：十一月九日(日)

午前九時～午後三時 受講料：七千円

チェーンソー作業従事者特別教育講習会

日時：十一月二十二日～二十四日(祝日振替日)

午前九時～午後三時 受講料：一万円 二日間の受講です。

*会場：牛久自然観察の森 レクチャー室

*定員：各二〇名

受講を希望される方は、牛久自然観察の森(担当：渡邊)までご連絡ください。

今月の古木・希少木 No.19 クロガネモチ

モチノキ科モチノキ属の常緑高木で、高さ10m以上になります。本州(関東地方以西)、四国、九州、沖縄の常緑樹林内に生え、朝鮮南部・台湾等のアジア東南部に分布します。雌雄異株。樹皮は常緑灰白色でなめらかです。葉は互い違いにつき厚く革質で、写真のように楕円形で先がとがり中央を中心に内側に曲がって船に似た形になります。花は六月。雌雄花とも新枝の葉のつけねに長さ1cmほどの花序軸を伸ばし、花弁が淡紫色の小さな花を数個咲かせます。果実は十月～一月、写真のように球形で長さ約6mm、小さく沢山集まって真っ赤に熟した姿は見事です。



葉と果実 07.11.3 渡辺



茨城県の北部山地が分布の北限ですが、牛久市内には自生はありません。果実が美しく楽しめるので庭木としてあちこちの庭や公園で見かけます。牛久市役所西側の公園に若い木が何本も植えられています。名前は黒鉄モチで葉や枝が黒ずんで見えるのでこの様な名前が付いたとも言われています。(石川満夫)

うしく里山秋祭り実績

里の朝市

朝市の来場者数 二百名

(関係者のぞくノ市役所柳下さんが計測) 売り上げ 十万一千七百円(完売)

朝市は、関係者の皆さんの協力で午前十時三〇分まで梅林、その後十二時から一時過ぎまでネイチャーセンター横での開催となりました。おかげで完売となりました。

・朝市スタッフは駐車場係九名、売り子八名。

巨木リサーチ事業

・来場者は三十四組九〇名、大人五十人、子ども四〇人。そのうち市外十八組、市内十四組、不明二組でした。

・プロジェクトスタッフは午前十名、午後十二名。

秋の里山を歩こう

・コース 観察の森・ネイチャーセンターから観察舎間及び、ビートルズトレイルの一部

参加者 事前申込者十三名、当日の活動参加者十七名、(一般参加者十二名、観察隊五名)

そば打ち体験

・十一名の参加がありました。

エコアップ作戦

・みどりの保全区の一番禺側の下草刈り実施。参加者は会員六名、刈り払い機三台。



…うしく里山秋祭り 活動スナップ…



6:40 スタッフミーティング



7:30 朝市スタンバイ



7:30 朝市スタンバイ



8:00 UFOクラブ



8:00 四つ葉の会



11:00 NC横で再開



8:30 運営本部



8:30 受付



9:30 つる籠教室



10:30 つる籠教室



10:30 木の大きさをはかってみよう



10:30 木の大きさをはかってみよう



12:30 どんぐりすくい



11:30 葉っぱ釣り大会



10:30 秋の里山を歩こう



11:30 そば打ち体験



14:30 エコアップ作戦



10:30 朝市会場撤収

祭りに参加された皆さんから多くのメッセージがありました。・とても楽しかったスタッフの方々が親切でした。・難しかったけどとても良かった。豚汁もとてもおいしかった。・幹の大きさの測定法を知る事が出来て良かったです。・大変楽しかった。草花の名前を少しずつ分かってきました。・先生方は終始丁寧な説明され勉強になりました。等々

11月の里山カレンダー

活動日は都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
						1 雑木林応援隊 9:00炭小屋 そば 9:00畑
2 巨木リサーチ(受) 8:30市役所玄関 雑木林応援隊 9:00炭小屋	3 (文化の日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P 雑木林応援隊 9:00炭小屋	4 (休園日) 雑木林応援隊(畑) 9:30畑 じゃがいも 10:00ボラセン	5 (休園日)	6 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	7	8 里山自然観察隊 9:00得月院P (会報等原稿〆切)
9 雑木林応援隊 9:00ムジナ	10 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P じゃがいも 9:00畑	11 雑木林応援隊(畑) 9:30畑	12	13 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	14	15 じゃがいも 9:00畑 Eコップ作戦 13:00NC
16 運営委員会9:00NC Eコップ作戦 13:00NC	17 (休園日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	18 雑木林応援隊(畑) 9:30畑	19	20 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P	21	22 巨木リサーチ(受) 9:00市役所玄関 そば 9:00観察舎 雑木林応援隊 9:00炭小屋
23 (勤労感謝日) 雑木林応援隊 9:00炭小屋 チェーンソー講習会 9:00NC(～24日)	24 (振替休日) アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P 雑木林応援隊 9:00炭小屋	25 (休園日) 雑木林応援隊(畑) 9:30畑	26 (休園日) 雑木林応援隊 9:00炭小屋	27 アヤマ園(受) 8:00アヤマ園P 広報委員会 (会報発送) 13:00NC	28	29 そば 9:00観察舎
30 さとやまセミナー 10:00NC						

凡例 森:観察の森, NC:観察の森ネイチャーセンター, P:駐車場, 炭小屋:観察の森駐車場奥の炭小屋, 畑:観察の森駐車場奥の畑, コジユケイ:観察の森内コジユケイの林, 観察舎畑:観察の森内観察舎前の畑, ムジナ:結束町の雑木林(通称ムジナの里), 市役所:牛久市役所本庁舎, アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園, (受):受託事業, (休園日):観察の森休園日

編集後記

「里山まつり」も成功裏に無事終了することができました。特に朝市には、秋の味覚である「さつまいも・梨・りんご」等が並び売れ行きも良かったようです。

秋の諺に「天高く馬肥ゆる秋」があり、今は秋のすがすがしさや食欲の秋を表現する言葉として知られていますが、もともとは中国の故事として伝わってきたものです。本来の意味は、紀元前、中国の北方にいた騎馬民族が、秋になると十分に肥えさせた馬に乗って、収穫物を狙い農村地帯を襲ったそうです。そのために農村地帯では「天高く馬肥ゆる秋」とは、「秋には侵略に警戒せよ」という故事成語のようです。

先日、奥日光にハイキングに行ってきました。ミズナラ・カエデ等が見事に紅葉していました。「秋の夕日に照る山もみじ・・・」子どもの頃唄ったことを思い出します。紅葉に彩られた秋の山を「山粧う」「山装う」といいますが、広辞苑によると「晩秋の澄んだ空気の中で山が紅葉に彩られているさま」とあります。俳句の季語として秋を表していますが、ちなみに山眠る(冬)、山笑う(春)、山滴る(夏)となっています。「春山は淡冶にして笑うが如く、夏山蒼翠にして滴るが如く、秋山明浄にして粧うが如く、冬山惨淡にして眠るが如し」

一年の季節の中で今が一番美しいときですね。

(佐藤輝雄 記)

広報委員会からのお知らせ

次号(2月号)の印刷発送は11月27日(木)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。よろしくお願いたします。